

⑧「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必須	2-1	2-2	2-3
情報A	2	○	○	○	○						
情報B	2	○	○	○	○						

⑨ 選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑩ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	ビッグデータ、IoT、AI 計算機の処理性能の向上 第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会 「情報B」(1回目、2回目)
	1-6	AI等を活用した新しいビジネスモデル(シェアリングエコノミー、商品のレコメンデーションなど) AI最新技術の活用例(深層生成モデル、敵対的生成ネットワーク、強化学習、転移学習など) 「情報B」(8回目)
(2) 「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど 1次データ、2次データ 構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画、音声/音楽など) データのオープン化(オープンデータ) 「情報B」(3回目、6回目)
	1-3	データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など) 研究開発、調達、製造、物流、販売、マーケティング、サービスなど 仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など 「情報B」(4回目)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、シミュレーション・データ同化など 特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと 認識技術、ルールベース 「情報B」(5回目)
	1-5	流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI活用事例紹介 「情報B」(7回目)

(4) 活用に当たっての様々な留意事項 (ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	ELSI(Ethical, Legal and Social Issues) 個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト データ倫理: データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護 AI社会原則(公平性、説明責任、透明性、人間中心の判断) データバイアス、アルゴリズムバイアス 「情報A」(4回目)、「情報B」(12回目)
	3-2	情報セキュリティ: 機密性、完全性、可用性 匿名加工情報、暗号化、パスワード、悪意ある情報搾取 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 「情報A」(5回目)、「情報B」(13回目)
(5) 実データ・実課題 (学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類(量的変数、質的変数) データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い) データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値) 打ち切りや脱落を含むデータ、層別の必要なデータ 相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡) 母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出) 統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない) 「情報A」(11回目)、「情報B」(9回目、10回目)
	2-2	データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、ヒートマップ) データの図表表現(チャート化) データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較、A/Bテスト) 不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素) 優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など) 「情報A」(12回目)、「情報B」(10回目)
	2-3	データの集計(和、平均) データの並び替え、ランキング データ解析ツール(スプレッドシート) 「情報A」(8回目、9回目、10回目、11回目)、「情報B」(9回目)

⑪ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

1. 基本的な文書処理やデータ処理ができる能力、2. インターネットを適切に利用できる能力、3. AI・データサイエンスの必要性を説明できる能力、4. 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる能力、5. データの活用方法について説明できる能力、6. データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる能力。

【参考】

⑫ 生成AIに関連する授業内容 ※該当がある場合に記載

教育プログラムを構成する科目に、「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム改訂版」(2024年2月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム)において追加された生成AIに関連するスキルセットの内容を含む授業(授業内で活用事例などを取り上げる、実際に使用してみるなど)がある場合に、どの科目でどのような授業をどのように実施しているかを記載してください。

※本項目は各大学の実践例を参考に何うものであり、認定要件とはなりません。

講義内容
科目「情報B」において生成AIに関する技術や課題(リスクとそのコントロール等)、生成AI時代に求められるスキルなどについて説明されているAI・データサイエンストレンド動画教材を視聴できるようにしている。また、それらの動画教材について学期末レポート(テーマは受講生がAI・データサイエンストレンド動画教材の中より任意に選択)を課し、自分が選んだテーマについて授業内容をふまえた上で自ら調べまとめることを促している。

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 年度

②大学等全体の男女別学生数 男性 人 女性 人 (合計 人)

③履修者・修了者の実績

学部・学科名称	学生数	入学定員	収容定員	令和5年度		令和4年度		令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		履修者数合計	履修率
				履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
総合生活学科	104	100	200	34	3											34	17%
食物栄養学科	77	60	120	27	0											27	23%
幼児教育学科	62	80	160	19	1											19	12%
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
																0	#DIV/0!
合計	243	240	480	80	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	17%

大学等名

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数 (常勤) 人 (非常勤) 人

② プログラムの授業を教えている教員数 人

③ プログラムの運営責任者
(責任者名) (役職名)

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(責任者名) (役職名)

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

⑥ 体制の目的

(1) 認定プログラムに関する計画・実施
(2) 認定プログラムに関する改善・進化
(3) 認定プログラムに関する自己点検・評価
(4) その他、上記運営に係る事項

⑦ 具体的な構成員

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画 ※様式1の「履修必須の有無」で「計画がある」としている場合は詳細について記載すること

令和5年度実績	17%	令和6年度予定	30%	令和7年度予定	35%
令和8年度予定	40%	令和9年度予定	45%	収容定員(名)	480

具体的な計画

新入生オリエンテーションで現代社会におけるAIやデータサイエンスの必要性や本プログラムについての説明を新入学生全員に案内し、プログラムの学生認知度を高めるとともに履修を促す。

令和6年度からは、本学の「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」が認定されれば、成績証明書にてプログラム修了証明が記載されることを対象学生に周知し、就職活動等でも有益であることを周知する。

令和7年度については前年度の周知状況と履修者数を参考に履修案内の内容や方法を見直す。また、1年次のみではなく2年次生にも未だ履修したことのない学生に対して改めて周知を行い、全学的に再度履修者を向上させる。最初のプログラム実施対象学年が卒業し、このプログラムにおける就職活動での活用等について意見が得られることから有用性を伝え履修率の向上につなげる。

令和8年度及び9年度についても同様に前年度の周知状況と履修者数を参考に履修案内の内容や方法を継続的に見直し、履修率の向上を図る。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラムを構成する2科目は、どちらも教養科目として1年次から開講しており、学科を問わず希望する全学生が受講可能なカリキュラムとなっている。「情報A」は基本的に学科毎に開講クラスを設定し、必要な授業担当教員数を確保している。メディア授業(オンデマンド方式によるe-learning)である「情報B」は、スマートフォンなどでも受講できるため、場所や時間を選ばずに学習可能であり、自宅などで各学生のペースにあわせた学習もできる。今後は履修対象年次が進み、希望者が増加していくことが予想されるが、教室調整等を行うことで希望者全員が受講可能な体制を保っていく。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

HP上に特設ページを設け、概要やスケジュールなど本プログラムの周知を行っている。また、年度初めのオリエンテーション時期には、本プログラムおよび対象科目に関する紹介を全学生向けに本学ポータルサイトにて掲載し、積極的な履修を促している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

キャンパスには、5つのパソコン演習室があり、各室とも50台程度のパソコンが設置されている。これらのパソコン演習室は、空き時間に開放されており、学生は自分の都合のよい時間にパソコンを使用して学習ができる環境にある。また、学内ではWI-FIが常時接続可能となっているため、メディア授業(オンデマンド方式によるe-learning)である「情報B」は、スマートフォンなどでも受講できるため、場所や時間を選ばずに学習可能であり、自宅などで各学生のペースにあわせた学習もできる。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

本学のLMS(manaba)上で履修者と教員間の資料のアップロード・ダウンロードや掲示板を利用して質問や回答が可能となっている。
その他にもポータルサイト(KISSシステム)を使用して該当学生と教員から学生個人ともメールや掲示連絡が可能となっている。ポータルサイトで確認できるシラバスには教員のメールアドレスやオフィスアワーも記載している。

令和5年度「数理・データサイエンス・AIリテラシープログラム」自己点検・評価について

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	導入している学修支援システムやe-Learningシステムにより、動画教材の視聴状況やプログラムの各内容に関する理解度を小テストを実施することで把握することが可能である。動画教材の視聴状況に関しては、e-Learningシステムの機能で1つ1つの動画視聴の視聴時期や視聴時間を詳細に把握し、データ分析に活用することで履修状況を把握することができる。また、理解度に関しては、学修支援システムの機能で、小テストに取り組んだ時期、回数、点数の推移、問題の正否等のデータを取得することが可能であり、これらのデータをもとに各内容の修得状況を把握することができる。
学修成果	導入している学修支援システムやe-Learningシステムにより、動画視聴の視聴時期や視聴時間、小テストに取り組んだ時期、回数、点数の推移、問題の正否等の客観的なデータを数理・データサイエンス・AI教育ワーキンググループにおいて大学と短期大学の本教育プログラムを構成する科目の学修状況として共有・分析し、本教育プログラムの評価・改善に活用している。具体的には、受講者の授業での取り組み状況・成果物、動画教材や小テストの活用状況と最終的な評価との関連性を検討し、改善すべき点を精微に洗い出している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラム受講者全員に対して授業アンケートを実施しており、授業の理解度や授業外での学修状況、内容の難易度、フィードバック、授業の工夫、授業の良かったところや改善点に関する自由記述等のデータを取得している。授業アンケートから把握できる受講生の主観的な意識と学修成果の欄で示した動画視聴の視聴時期や視聴時間、小テストに取り組んだ時期、回数、点数の推移、問題の正否等の客観的なデータを数理・データサイエンス・AI教育ワーキンググループにおいて総合的に分析し、学生の理解度を分析している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	令和5年度より本教育プログラムが実施されたため今後の展望となるが、受講生の受講状況や授業アンケート等の分析結果に基づいて本教育プログラムの概要や得られる学びに関して学修支援システムを通じて配信し、受講の推奨に活用する予定である。将来的には、本教育プログラムにおける受講生の成果物等を受講者に確認した上で後輩学生が自由に閲覧できるようにアーカイブ化し、本教育プログラムの受講によって習得できる資質・能力を具体的にイメージできるようにすることも検討している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本教育プログラムを構成する科目である情報A及び情報Bに関して、各学科の初年度ガイダンスにおいて本教育プログラムの履修を推奨する等の取り組みにより、履修者数、履修率の向上にむけて推進している。また、科目担当教員を中心とした数理・データサイエンス・AI教育ワーキンググループを定期的実施し、大学と短期大学における数理・データサイエンス・AI教育の内容について各専門分野からの観点も取り入れ見直し等を検討し、より多くの学生の履修推進を図る。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	令和5年度から実施したため、まだ本教育プログラムを修了した卒業生を輩出していない。今後は、本学のキャリアサポートセンターと連携し、本教育プログラムを修了した卒業生の進路や採用状況を把握する仕組みを構築していく予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	過去3年間(令和3年度～令和5年度)の本学キャリアサポートセンターの求人情報によれば、情報、医療、福祉、一般など、様々な分野で約1800件に及ぶIT系(データサイエンティスト、データアナリスト、システムエンジニア、プログラマーなど)の求人がある。求人は年々増加傾向にあり、短期大学生においてもIT系職種への就職が増加している。今後は提携企業と協力して、社会で必要とされる情報に関する知識やスキルについての意見を収集し、それを基に授業の改善を進める計画を推進していく予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	情報の基礎的な知識やスキルを培いつつ、最新の技術や社会問題、動向に基づく時事やトレンドの実例を取り入れた興味を引く講義内容を提供している。最新のトレンドに関しては、学生がそれぞれの興味や関心に基づいたテーマを選び、レポートを作成させ、その内容に対して評価を行っている。令和5年度において、10個のテーマの中から、「マイナンバーカードの普及」、「自動走行車・ドローンの活用に向けた法制度改正」、「メタバースに期待すること」などが選ばれた。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	FD・SD委員会の学生授業アンケートを参考に、「わかりやすさ」の観点から講義の内容・実施方法の見直しを検討している。特に、令和5年度では実習形式の演習による丁寧な指導やグラフなどを使用した視覚的なオンデマンド講義が「わかりやすさ」に寄与していたことが確認された。 また、社会の変化に応じた最新のトレンドを取り上げ、動画として何度も繰り返し視聴できるようにしている。

授業コード	J30000820	ナンバリングコード	GEI4-012
科目名称	情報A		
副題			
担当者	堀 桂太郎	期間	2023年度 前期 単位 2
授業形態	演習	実務経験のある教員による授業	
実務経験内容			
授業全体の内容の概要	高度情報化が更に進展し、ますます拡大されてきています。このような情報化の進展に伴い、一人ひとりが「情報」を主体的に選択し、活用していくための基礎的な資質を身につけることが大切です。そしてパソコンやソフトウェアの操作能力向上だけでなく、情報モラル・セキュリティ等、情報化社会で生きる姿勢・態度の学習も必要です。本講義では、ワープロ、表計算等のアプリケーションプログラムの活用を通して、コンピュータの役割と機能について理解し、適切に活用する能力を身につけます。コンピュータの基本操作から、Windowsシステムの基礎知識、ファイルの扱い方、情報の利用、情報モラルの理解について学びます。		
アクティブ・ラーニング授業			
PBL（課題解決型）		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
ICTの活用			
manaba	○	Moodle	
その他			
到達目標	授業を通して、次のことを目標とします。 ①Windowsパソコンのカスタマイズ、基本操作ができる。 ②ワードを使って文書処理ができる。 ③表計算ソフトExcelを使って基本的なデータ処理ができる。 ④インターネットを適切に利用できる。		
準備学修（予習・復習）の内容・時間	タッチタイピングの練習 及び 各回の講義についての予習・復習、課題への取り組みを行ってください（各回、合わせて1時間程度）。		
成績評価方法	タイピング（10%）、課題（70%）、最終レポート（20%）		
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題やレポートは、添削して返却します。また、必要に応じて個別に問題点を指摘し、改善を求めます。		
オフィスアワー（質問等の受付方法）	毎週火曜日 17:15～19:00 研究室 A716 メールでの質問等は、本文に、学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。		
メールアドレス	khorii@kwjic.kobe-wu.ac.jp		
受講生への要望、その他	この授業で身に付ける知識や技術は、パソコンを安全かつ、効果的に利用するための基礎となります。したがって、ここで身に付けたことは他のいろいろな授業での学習にも役に立ちます。各自でテキストを参考にしながら、特に復習や課題作成に積極的に取り組んでください。すでにパソコンを使っている人にとっても、基礎知識や技術が正しく理解できているかどうかを確認しながら学習を進めてください。基礎だからと言って学習がおろそかにならないよう、目的意識を明確にして粘り強く学習してください。 ※コンピュータの台数が限られていますので、受講人数を制限することがあります。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義のガイダンス、大学の情報環境の習得 2. インターネット、タッチタイピング 3. 電子メール、文書作成の基礎 4. 情報モラル、ページ設定と文書の印刷 5. 情報セキュリティ、文書の編集 6. コンピュータのハードウェア、表の作成 7. コンピュータのソフトウェア、図形と画像の扱い 8. データサイエンス入門1：表計算の基礎 9. データサイエンス入門2: 表計算の参照方式 		

授業コード	J30000830	ナンバリングコード	GEI4-013
科目名称	情報B		
副題			
担当者	堀 桂太郎	期間	2023年度 前期 単位 2
授業形態	講義	実務経験のある教員による授業	
実務経験内容			
授業全体の内容の概要	<p>情報化社会において、AI・データサイエンスに関して興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養（新たな読み書きそろばん）を修得し、日常や仕事の場で使いこなせるようになることは大切です。本授業は、広い様々な視点からAI・データサイエンスに関して基礎的な知識を修得し、日常の生活や仕事で使いこなせるようになる内容を扱います。学修方法は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定のe-Learning教材を活用し、全てオンライン上で学修する。 ・動画コンテンツを視聴し、途中でメモを取り、分からない用語を調べながら学修する。 ・各週ごとに用意されている小テストを受け、13週目で最終テストを実施する。 		
アクティブ・ラーニング授業			
PBL（課題解決型）		反転授業	
ディスカッション・ディベート		グループワーク	
プレゼンテーション		実習、フィールドワーク	
その他			
ICTの活用			
manaba	○	Moodle	
その他			
到達目標	<p>授業を通して、次のことを目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①AI・データサイエンスの必要性を説明できる。 ②社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる。 ③データの活用方法について説明できる。 ④データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる。 		
準備学修（予習・復習）の内容・時間	指定のe-Learning教材の学修及び 前回講義の1時間程度の復習		
成績評価方法	課題（70%）、最終レポート（30%）		
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	e-Learning教材で示される小テスト等において、解答や採点結果がフィードバックされますので学修に役立ててください。		
オフィスアワー（質問等の受付方法）	<p>毎週火曜日 17:15～19:00 研究室 A716 khori@kwjc.kobe-wu.ac.jp メールでの質問等は、本文に、学科名・氏名・授業名を記載し、質問事項等を記入してください。</p>		
メールアドレス	khori@kwjc.kobe-wu.ac.jp		
受講生への要望、その他			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義のガイダンス、データサイエンスとは 2. 社会で起きている変化 3. 社会で活用されているデータ 4. データ・AIの活用領域 5. データ・AI利活用のための技術 6. データ活用とは 7. データ・AI利活用の現場 8. データ・AI利活用の最新動向 9. データを読む 10. データを説明する 11. データを扱う 12. データ・AIを扱う上での留意事項 		

授業科目

教養科目

〔表中の記号説明〕

単位数欄 無印－講義科目 []－演習科目

()－実験・実習・実技科目

年次欄 ●●－通年の開講



授業が始まって
すぐ必要なことから

授 業 科 目	単位数		備 考	1年次		2年次	
	必修	選択		前期	後期	前期	後期
心身の健康科目群	教育学	2	「体育実技」は食物栄養学科必修		○		○
	衣生活の知識	[1]			○		○
	食事学	2		○		○	
	食品科学	2			○		○
	体育講義	2		幼	○	○	○
	体育実技	(1)		食	○	幼	○
	* 健康づくり・生活支援入門	2		○			
	* 健康づくり・生活支援ワークショップ	2			○		
* 健康・生活支援指導論実習	(1)			○			
コミュニケーション科目群	異文化コミュニケーション	2	教育職員免許状（幼二）及び保育士資格取得のためには「情報A」、「日本国憲法」、「体育講義」、「体育実技」は必修	○		○	
	● 心理学 I	2		○		○	
	英会話	[1]		○	○	○	○
	英語コミュニケーション（a）	[1]		総幼		食	
	英語コミュニケーション（b）	[1]			総幼		食
	英語講読（a）	[1]		○		○	
	英語講読（b）	[1]			○		○
	フランス語 I	[1]		○		○	
	フランス語 II	[1]			○		○
	中国語 I	[1]		○		○	
	中国語 II	[1]			○		○
	イタリア語 I	[1]		○		○	
	イタリア語 II	[1]			○		○
日本語入門	2	○		○			
海外語学演習	[3]					単位はその都度認定する	
* 人間関係づくりワークショップ	2			○			
感性を磨く科目群	造形美術	[1]		○	○	○	○
	芸術表現学	2			○		○
	音楽鑑賞	[1]		○		○	
	日本文学	2			○		○
	日本の伝統文化	2		○	○	○	○
キャリアアップ科目群	キャリアへのアプローチ I	2		○			
	キャリアへのアプローチ II	[1]			○		
	● 数学 I	2		○		○	
	● 数学 II	2			○		○
	情報 A	[2]		○			
情報 B	2	○					
社会を理解する科目群	子どもと社会	2			○		○
	神戸学	2		○		○	
	日本の生活文化	2			○		○
	ボランティアの実践	(1)		●	●	●	●
	日本国憲法	2		○	○	○	○
	* 地域コミュニティ入門	2		○			
	* 防災・防犯入門	2		○			
	* 防災・防犯ワークショップ	2			○		
	* 防災・防犯指導論実習	(1)			○		
	* 地域連携インターンシップ I	(1)					○
* 地域連携インターンシップ II	(1)				○		
計	2	72	卒業要件単位数は 12 単位以上				

* ポーアイ 4 大学共通教養科目

● 単位互換科目

神戸女子大学・神戸女子短期大学 数理・データサイエンス・AI 教育ワーキング

グループ規程

(目的)

第1条 この規程は、神戸女子大学・神戸女子短期大学全学共通教育運営委員会規程第3条第4項の規定に基づき設置する神戸女子大学・神戸女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 ワーキンググループは、文部科学省が定める「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に基づく神戸女子大学・神戸女子短期大学の認定プログラムの運営に関して、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 認定プログラムに関する計画・実施
- (2) 認定プログラムに関する改善・進化
- (3) 認定プログラムに関する自己点検・評価
- (4) その他、上記運営に係る事項

(組織)

第3条 ワーキンググループの構成員は、次の各号に掲げる教員をもって組織する。

- (1) 全学共通教育運営委員長
- (2) 全学共通教育運営委員のうち情報分野代表
- (3) その他、全学共通教育運営委員長が必要と認めた者

2 ワーキンググループの長（以下「グループ長」という。）は全学共通教育運営委員長とする。

3 グループ長に事故があるときは、同条第1項第2号に定める情報分野代表のうちグループ長が事前に指定した者が優先してその職務を代行する。

4 構成員は、グループ長が任命し、全学共通教育運営委員会に報告する。

(運営)

第4条 会議はグループ長が招集し、議長を務める。

2 議事は、構成員全てのうち委任状を含めた過半数の賛成を以て決議する。なお、審議結果については議長が全学共通教育運営委員会に報告する。

(構成員)

第5条 構成員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

2 構成員に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(雑則)

第6条 この規程に定めるもののほか、ワーキンググループに関し必要な事項は、グループ長が決定する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、全学共通教育運営委員会及び部局長等会議の意見を聴き学長が行う。

附則

1 この規程は、令和5年10月19日から施行し、令和5年4月1日から適用する。

神戸女子大学・神戸女子短期大学 数理・データサイエンス・AI 教育ワーキング

グループ規程

(目的)

第1条 この規程は、神戸女子大学・神戸女子短期大学全学共通教育運営委員会規程第3条第4項の規定に基づき設置する神戸女子大学・神戸女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 ワーキンググループは、文部科学省が定める「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」に基づく神戸女子大学・神戸女子短期大学の認定プログラムの運営に関して、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 認定プログラムに関する計画・実施
- (2) 認定プログラムに関する改善・進化
- (3) 認定プログラムに関する自己点検・評価
- (4) その他、上記運営に係る事項

(組織)

第3条 ワーキンググループの構成員は、次の各号に掲げる教員をもって組織する。

- (1) 全学共通教育運営委員長
- (2) 全学共通教育運営委員のうち情報分野代表
- (3) その他、全学共通教育運営委員長が必要と認めた者

2 ワーキンググループの長（以下「グループ長」という。）は全学共通教育運営委員長とする。

3 グループ長に事故があるときは、同条第1項第2号に定める情報分野代表のうちグループ長が事前に指定した者が優先してその職務を代行する。

4 構成員は、グループ長が任命し、全学共通教育運営委員会に報告する。

(運営)

第4条 会議はグループ長が招集し、議長を務める。

2 議事は、構成員全てのうち委任状を含めた過半数の賛成を以て決議する。なお、審議結果については議長が全学共通教育運営委員会に報告する。

(構成員)

第5条 構成員の任期は、1年とし、再任を妨げない。

2 構成員に欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(雑則)

第6条 この規程に定めるもののほか、ワーキンググループに関し必要な事項は、グループ長が決定する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、全学共通教育運営委員会及び部局長等会議の意見を聴き学長が行う。

附則

1 この規程は、令和5年10月19日から施行し、令和5年4月1日から適用する。

大学等名	神戸女子短期大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	数理・データサイエンス・AI リテラシープログラム	申請年度	令和6年度

取組概要

本プログラムは、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）認定制度」に準拠し、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力の向上を図ることを目的としています。

事業計画 数理・データサイエンス・AIリテラシー プログラム



概要

神戸女子短期大学の全1年生を対象とした「数理・データサイエンス・AI リテラシープログラム」は、教養科目の2科目で構成されます。

2023年度前期

2024年度

総合生活学科

食物栄養学科

幼児教育学科

【教養科目】
情報A

※演習科目

コンピュータ利用の
基礎・基本を身につける

【教養科目】
情報B

※e-Learning（オンデマンド）

数理・データサイエンス・AI
に関する基礎的な能力の向上
を図る

運用結果の
自己点検を行い
次年度の
プログラムに反映

数理・データサイエンス・AIリテラシープログラムの修了要件は
教養科目 情報A（2単位）・情報B（2単位）
の計4単位を修得すること

【身に付けられる能力】

- ① 基本的な文書処理やデータ処理ができる
- ② インターネットを適切に利用できる
- ③ AI・データサイエンスの必要性を説明できる
- ④ 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる
- ⑤ データの活用方法について説明できる
- ⑥ データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる